

鉄道友の会

西鉄研究会報

VOL.1

2015年7月20日号

鉄道友の会の「2015年度定時総会」は7月4日、東京都の「北とぴあ」であり、西鉄研究会は吉富実代表と松嶋克廣の代表会員2人が出席。総会では全ての議案を可決した。

総会には総数79人のうち、代表会員など66人と委任状提出の6人の計72人の出席があり、3分の2以上の出席で総会が成立しました。

総会で、須田寛会長は会員の減少に歯止めがかかっていないことを強調し、「皆さんには会員増を図ることと鉄道車両など保存活用の取り組みの2つのことをお願いしている。地域に密着した活動で会員増を目指し、鉄道車両や施設は文化財だと知らせよう」と呼び掛け、「入って良かった鉄道友の会にしたい」とあいさつした。



議案書審議では「2014年度運営報告」を関崇博専務理事が、「2014年度収支決算報告」を二宮敬彦理事がそれぞれ説明し、監事から監査報告があった。それに対し、西鉄研究会の松嶋代表会員は「会長のあいさつの中にある地域密着した活動で広域支部のエリア見直しは考えられないか」や「B賞、L賞から趣味的見地を外した理由について」など質問。エリア見直しについては「検討する」と回答。B賞、L賞については決定事項であるとした。が、懇親会の席上、理事からこれまでの経緯を含め解説していただき納得できた。

「2015年度運営計画案」を関崇博専務理事が、「2015年度収支予算案」を二宮敬彦理事がそれぞれ説明。早速、西鉄研究会の松嶋代表会員は「鉄道友の会の制度や規定の見直しとは何か」などと質問。関専務理事は「昨年の総会で改正案の提出をお願いしているが一件も上がってこない」との回答に、松嶋代表

会員は「たたき台になる改正案を出す」と返答した。

「代表会員を代議員に変更する」という会則の一部改正が提案され、北海道支部や西鉄研究会の吉富代表らは「代議員への変更の意味は」などを質問。「単なる名称を変更するだけで内容は変わらない」と回答があり、賛成多数で可決した。

議案審議終了後の各研究会と支部の代表者あいさつで、西鉄研究会の吉富代表は活動を披露、「西鉄フェアに出展を計画している成果を出したい」と締めくくった。

他支部などの発表を紹介すると、名古屋支部が若い会員に助成していることや福井支部では支部創立 50 周年記念誌「ふくいのでん 160 年」を自費出版したことなどがあげられる。

その後、記念講演では「リニア中央新幹線の取組み」と題し、須田会長がリニアの建設概要や仕組みなどについて講演した。

懇親会では、乾杯の音頭を西鉄研究会の吉富代表が担い、西鉄研究会を全国にアピールしました。



※総会議案など詳細につきましては次回例会（8月30日）で報告しますので是非、ご出席下さいます様お願いします。

（松嶋）